

P17

小児患者におけるテトラサイクリン・プレステロン歯科用軟膏の臨床応用について

○ 比嘉 和、馬場篤子、豊原達也、
緑川由紀、本川 涉

福岡歯大・成育小児歯

【緒言】 小児歯科臨床において口腔軟組織疾患に遭遇する機会は多い。治療法として、原因因子を除去することが第一であるが、薬物療法を併用することも重要な役割を担っている。近年、(株)日本歯科薬品より抗菌剤に抗炎症剤を配合した治療薬が開発され、成人の歯周炎急性期などに多用されているテトラサイクリン・プレステロン軟膏（以下 TCPS と略す）を小児患者に用いたところ、興味ある知見を得たので症例報告を交えて報告する。

【対象】福岡歯科大学医科歯科総合病院小児歯科外来を受診した31名（男児18名、女児13名）の患児を対象に行なった。症例の内訳は、歯肉膿瘍、アフタ性口内炎、褥瘡性潰瘍、リガ・フェーデ病および外傷時の軟組織裂傷に対し、観察を行なった。

使用法：①カートリッジ型（院内処置）、②チューブ（投薬）、③ ①と②の両者を用いたもの。

【結果および考察】使用したほとんどの症例において改善傾向を認めた。特に、重症な根尖性歯周炎に罹患し、歯肉膿瘍を認めるが、一時的に保存しなければならない症例に対し、効果的であった。

TCPSに配合されているテトラサイクリンは、他の抗生剤に比較して強い抗菌作用が認められており、プレステロンは抗炎症作用剤である。ポケット内局所薬物注入法を行なうだけで治癒するわけではないが、急性期の適用が最も理想とされていることは以前より指摘されており、今回用いた小児患者のほとんどの臨床症例で炎症の改善が認められたことから、TCPSが治療の一助となっていることが明らかになった。

P18

動的咬合誘導終了時に上顎洞内に歯牙腫の発現を認めた一症例

○佐藤秀夫、岩崎智憲、早崎治明、山崎要一

鹿大 院医歯 小児歯

【症例】

初診時年齢10歳3か月の女児。上顎右側側切歯の形成不全および同犬歯の埋伏に対する精査・加療目的で近医から紹介により来院した。エックス線写真により上顎右側側切歯胚および同犬歯の重なりを認め、同側切歯形成不全ならびに同犬歯の萌出不全と診断し、同側切歯の形成状態を確認するため経過観察とした。初診時より8か月後、エックス線写真により再度同側切歯の形成状態に変化がないことを確認し、同歯胚の摘出ならびに同犬歯の萌出誘導を決定した。また、同乳犬歯は歯根吸収の程度より保存可能と判断した。

咬合誘導の手順および経過は以下に示す。

- ① 上顎右側犬歯の萌出誘導スペースを確保する目的で、同乳犬歯の遠心移動を行った。
- ② 同乳犬歯の遠心移動終了後に、上顎右側側切歯胚を摘出した。
- ③ 埋伏している同犬歯の開窓術ならびに固定式装置による牽引誘導を行った。
- ④ 牽引誘導中に、同乳犬歯が脱落により、治療計画を変更し、同犬歯の遠心移動を実施した。
- ⑤ 同犬歯遠心移動終了直前(12歳10か月)、パノラマエックス線写真を撮影した際、左側上顎洞内に不透過像を認め、CTによる精査により歯牙様硬組織と判明し、同部摘出後の病理組織診断により、歯牙腫と判明した。

現在は歯列誘導後の上顎右側犬歯の保定および定期観察を継続中である。